

巻頭言

新入生を迎えて

加瀬 正裕

4

特集 1

学校法人千葉学園
将来構想第1期中期経営計画 2014～2018

5

特集 2

孫文と梅屋庄吉 ～「Transnationalな生き方を学ぶ」

小坂 文乃

36

特集 3

同窓会新会員と大学の新入生をお迎えして

長谷川 幸吉(柏龍)

64

活躍する卒業生

人生いろいろ

本部からの報告

第131回常任幹事会

支部活動

体育会OB会活動報告

支部からの報告

同期会からの報告

OB会からの報告

我々のOB会 ―自動車部OB会

全日本代表選手・岸川誠也選手を通じて社会貢献 ―卓球部OB会

同窓生寄稿

幕末・維新の英傑ととらばん

Dブロック(中国・四国)支部長会開催

卒業生のお宿・お店紹介 炭火焼「だいら」

随筆

非人清光

小石に刻んだ思い出の栞しほり

商経学部がめざすこと ―商経学部

吉住 啓

86

三橋 規宏

87

太田 三郎

89

広報1丁委員会

67

勝田 啓示

68

金網 栄一

68

島崎 俊裕

80

金子 聡訓

81

太田 敏幸

82

加林 章

83

小林 巖

85

島崎 俊裕

80

金子 聡訓

81

太田 敏幸

82

加林 章

83

小林 巖

85

CUCの教育

ゼミ紹介

CUCレポート

保護者便り

▼第44期同窓会維持会費、華甲会費及び入会金納入者一覧 112

▼同窓会支部事務局一覧 118

▼編集後記 120

左脳と右脳を活用し、地域をつくる — 政策情報学部

「Transit General Office Inc.」が53番目の公式サポーター企業に！ — サービス創造学部

人間社会学部スタート — 人間社会学部

I F R S 財団のWork Shopで学ぶ — 会計ファイナンス研究科

教育革新センターの役割 — 教育の革新を目指して — 教育革新センター

三高商定期戦について — 学生部

「いちかわTMO講座」と大学との連携 — 地域連携・ネットワークセンター

海外へ飛び出す学生たち — 国際センター

CUCのパソコンが新しくなりました — 情報基盤センター

体育センター発足にあたって — 体育センター

自らの才能を引き出す

■ ニュース・イベント

2015年4月新設「CUC国際教養学部」が記者発表会&シンポジウムを開催
国際人の養成を目指してダブル・ディグリー制度がスタート

第53回全国大学対抗簿記大会で本学瑞穂会3チームがトップ3を独占！

■ 地域連携・ネットワークセンターニュース

春学期「チャレンジ応援奨学金」に2件採択

「キッズビジネスタウンいちかわ」、賑やかに開催！

学生ボランティア自主防災会が「非常食炊き出し訓練」を実施

学生たちが企画・制作した商店街のフリーペーパー

CUC教育後援会会長就任に際しまして

教育後援会役員会報告

叶うか？ 親のわがまま

社会を学べる活動

学生の潜在ニーズに 대응するのではなく、潜在ニーズを引き出したい

原科 幸彦	90
吉田 優治	91
朝比奈 剛	92
武見 浩充	93
鈴木 春二	94
松尾 正敏	95
龍上 信光	96
高橋 百合子	97
柏木 将宏	98
江幡 健士	99
柳沢 順	100
宮下 律江	105
野田 健治	109
関口 康大	110
川瀬 功	111
地域連携・ネットワークセンター	103
キッズビジネスタウン	104
学生ボランティア	104
簿記大会	102
国際教養学部	101
ニュース・イベント	101

新入生を迎えて

加瀬 正裕

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭43 経済)



新年度早々の4月2日には気鋭の入学生を迎えました。新入生ならびにご家族の皆さまに対して母校へのご入学を心から歓迎し、祝意を表したところです。

すでに数カ月経過した中、大学生活にも少し慣れ、足元を見つめる余裕も生まれて来たのではないのでしょうか。こうした中、卒業生の一人として新入生の皆さんに学生活中こんなことを心掛けていただいたら良いのでは、と呼びかけてみるつもりです。本誌は同窓会情報誌ではありますが、入学生の皆さんの目に触れる機会や、学内などで接し呼びかけする場面もあることを考え、一言触れてまいります。

それは、「学生生活の基本は学問を修めることにあること」と。並行して、体育・文化、サークル活動などにもしっかりと臨み、学内関連の生活を中心に据えどっぷりとかかって欲しい」と希望するものです。

教養科目はもとより、専門性を中心とした学習に重点

を置き、キャンパスでの滞在時間を長く維持できるように工夫し、学内での学びの機構や施設を活用したいものです。また、部活動やサークル活動を通して健康的な心身を基に、文化的・創造的な面を伸ばしていくことなどにも注力していくことが望まれます。当然のこととして、関心のある分野・領域に対して切磋琢磨し、より高いレベルのステージで競い合い、戦うことを目指すことも大切なことです。何気ないことのようにも映りますが、これらを極める道を通して人生に有用な力が付くものと期待するところです。

人口減少の進行する中、これから十数年先は若者に対して一人ひとり役割分担が重くなつてまいります。同時に存在感が増して来ることも明白ですが、こうしたことを見据え、地力ある若者として一人ひとりが成長していく学びの場が千葉商科大学であることを期待し、エールを送ります。

人生いろいろ

長谷川 幸吉（柏龍）

公益財団法人 日本民謡協会 専務理事
昭和34年3月 商経学部商学科卒業

このコーナーでは実社会で活躍する同窓生の紹介をしています。今号は公益財団法人 日本民謡協会専務理事 長谷川幸吉（柏龍）氏から「寄稿いただきました。」

人生、なかなか自分の意にならない。

一 私には電鉄会社に職を得た

電鉄会社は、鉄道のほか、バス・タクシー・不動産・開発部門など裾野が広く、私は鉄道、総務、自動車、企画室へと廻された。



1 鉄道

鉄道では、「輸送の安全は、規則を遵守し愚直に実行すること」を叩き込まれた。

「少しは融通を利かせても」と思った時もあつたが、安全確保は、手間がかかっても手順通り作業することの大切さを身に付けた。

2 総務部

総務部では、社会保険・労災等を担当した。業務引き継ぎの際、前任者から「この仕事は関係法律を良く理解していることが大切だが、残念ながら私のほか誰も判

らない」と云われ、業務を引き継いだ。

数日後、わからないところがあつたので、前任者に聴きに行ったところ、「引き継ぎは終わっている。あとは君がやるべき」と相手にしてくれない。

私は途方に暮れたが、「教えてくれなければ、自分で学ぼう」と覚悟を決め、以降手引書や行政官庁、さらには関連協会などへ伺い、自分のものにしていった。

今、思えば、あの経験が、困難には積極的に立ち向かう根性を醸成してくれたと思っている。

3 自動車

当時の乗合バスは、都市部では道路渋滞による定時運行の確保困難の問題があつた。

たとえば、片道30分の路線が、遅延解消のため、運行時間を3分延長すると、さらに10%のバス車両と乗務員を投入しても現行本数しか維持できず、しかも収入は向上しない。

当時はツーマンバスであり、乗務員とバス車両投入の経費増が重く経営に押し掛かつた。

昭和53年5月、自動車部長を拝命した。バス事業の安定経営には困難が多かつたが、ワンマンバス化の促進、営業所業務の機械化、バスダイヤの効率化等に取り組み、

多忙を極めた。

バス運賃の改定(値上げ)には賛成する人などいない。しかし、何度も会い、意見交換していると、「考えは異なっているもお互いに相手方の言い分は理解できる」ようになっていった。それにどう向き合っていくかの大切さを身に付けたことは、大きな財産となつた。

4 企画室

平成元年6月、取締役企画室長を拝命したが、バス事業を黒字基調で後任者へ引き継げたことは嬉しかった。

仕事はさらに広範囲になつたが、休日出勤や事故発生による緊急出勤もない。収入部門を持たない気楽さもあつた。

二 家業の充実

その頃、日本はバブル景気で湧いていた。私は、自家をビル化し、さらに、他に駐車場を増設して、生活の基盤を固めることとし、平成4年6月の定時株主総会をもって取締役を退任し、家業に専念することになった。

三 民謡に親しむ

父母が民謡を習っていたので、昭和39年、父と同じ民

謡会へ入り、同時に日本民謡協会へも入会し、民謡を習い楽しんでた。

平成7年6月、日本民謡協会から、私の師匠を通じて話があり、家業の傍ら、日本民謡協会の仕事を手伝うことになった。

協会は、昭和25年6月設立、昭和40年5月、文部省(当時)から「財団法人」の許可を得た公益団体であった。

その後、法律の改正に伴い、内閣府の認定を受け、平成24年4月1日から「公益財団法人」へ移行し、我が国最大の民謡団体として、一層我が国の文化および芸術の振興に寄与すべく努力している。

民謡は、大自然との共生や、毎日の暮らしの中から生まれてきたもので、唄い手が変わると唄も順応して心に響いてくる。

流行歌と異なり、同じ民謡を何年唄っていても、その度に新鮮さがあり、一生付き合っても良い趣味だと思っ
ている。

四 人生いろいろ

私は、経理部門へ配属されることはなかったが、役職によって、「商学」を幅広く活用する場が多くなり、今で

は「有り難かった」と思っている。

最近、入社早々の社員が「自分の目指していたものは違う」等の理由で退社する人が多いとのこと。非常に残念で、もったいない。

会社は、会社の都合で社員の育成や異動を執り行う。私の経験では、まず、「自分の前にある仕事に全力を尽くし、その仕事を好きになるように努めなさい」と云いたい。前向きな仕事と後ろ向きの仕事では、成果に大差が出る。企業の上司は、それらをしっかりと見て評定している。「人生いろいろ」ある。

長谷川幸吉(柏龍)

略歴:

昭和34年 千葉商科大学商経学部商学科卒業

新京城電鉄株式会社入社

平成元年 取締役企画室長

平成4年 家業に専念のため退任

平成7年 財団法人日本民謡協会(現公益財団法人日本民謡協会)

入会

平成13年 常務理事

平成25年6月 専務理事